

JICA海外協力隊 WEB説明会

環境教育 篇

地球にもヒトにも優しい活動をした
いとのお考えの方

1. 環境教育ボランティアとは
2. 活動事例
3. 求められる人材について
4. 質疑応答

元青年海外協力隊
juwi自然電力株式会社

北 俊宏

H25年派遣
スリランカ
環境教育

青年海外協力隊事務局
課題業務・選考課

脇田 由佳

司会進行

村山 千代

1. 環境教育ボランティアとは

途上国の環境問題について、
現地の人々と一緒に解決に向けた
取り組みをし、
人々の意識や行動の変化を促すため
の啓発活動や教育をします。

環境教育に関連する活動を実施している諸団体に配属されます。

- 環境省や教育省系の地方自治体
 - 環境系NGO
 - 自然公園や国立公園の管理事務所
 - 環境センター
 - 教育委員会や教育機関
- など

自然ガイド



ウガンダ

イベント企画・運営



エクアドル

コンポストの普及



エクアドル

ゴミ分別支援 廃棄物管理



フィジー

学校巡回 環境教育授業



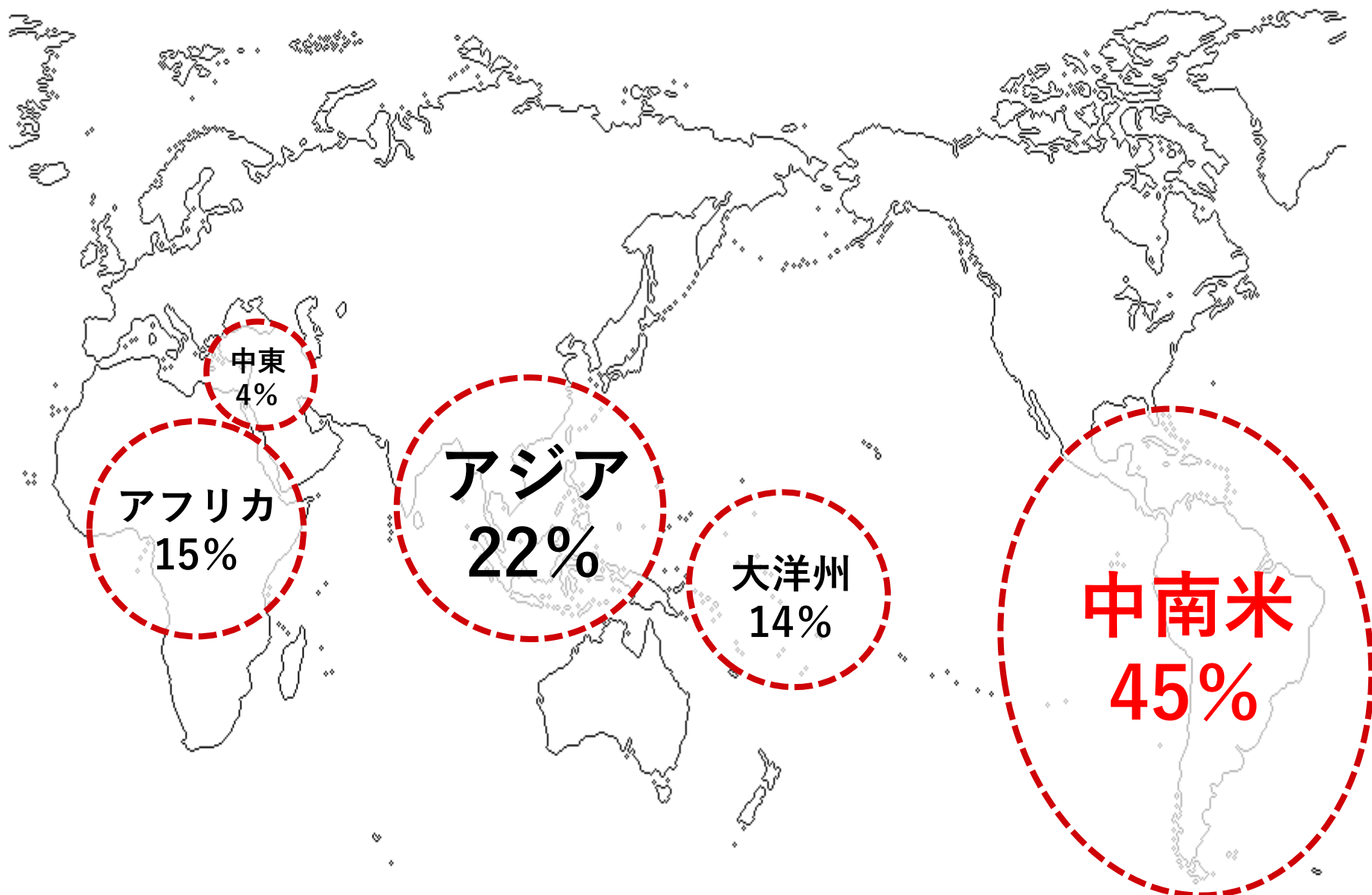
ケニア

教材開発 教育展示の改良



エジプト

派遣中ボランティアの地域内訳



(2018年8月末時点)

2. 活動事例

環境教育／スリランカ

2013年度派遣

北 俊宏

2013年度2次隊として青年海外協力隊に参加 スリランカのキャンディ市役所派遣



DOWAエコシステム(株)

廃棄物管理や貴金属リサイクル等を手掛ける民間企業で5年間勤務。業務管理や現場改善、総務・経理・営業職などに従事。

志望動機

- 幼少期に見た海外のゴミ山の映像や国内の不法投棄問題をきっかけにゴミ問題に興味を持つ
- 就活時に仕事を通して環境問題に関われるキャリアを模索
- 東日本大震災を通して、国際協力や社会課題により関ることが出来る仕事が自分に合っていると気づき、挑戦を決意

- 配属先 キャンディ市役所廃棄物管理課
 - (1) 住民への家庭用コンポストの普及
 - (2) 日本モデルの環境教育の仕組み作り
～子供から大人までの教育の実践～

(1) 住民への家庭用コンポストの普及



住民の家でのワークショップ



自治会でのワークショップ

(2) 日本モデルの環境教育の仕組み作り ～子供から大人までの教育の実践～



紙芝居を使った環境教育
@小規模幼稚園



授業前の手遊びシーン
@大規模幼稚園

(2) 日本モデルの環境教育の仕組み作り ～子供から大人までの教育の実践～



小学校での環境教育



中学校での環境教育

(2) 日本モデルの環境教育の仕組み作り ～子供から大人までの教育の実践～



住民説明会で市役所の担当者と日本の廃棄物管理の紹介



派遣先の市役所の市長、副市長、カウンターパート（上司）との一枚

- 世界を正しく見る“ものさし”
先入観や偏見無しに世界を観察できる
- 多様性を享受できる感覚
どんな場所でも、どんな人達とも、働ける
- 自由なキャリア
仕事を通して社会課題に関わって行く方法



スリランカの特徴がよくわかる一枚

- 日本の中古ゴミ収集車の寄付イベント
- 4つの宗教（キリスト教、イスラム教、ヒンズー教、仏教）
- 2つの大きな民族（シンハラ人、タミル人）、小民族が共存する国

- 世界を正しく見る“ものさし”
先入観や偏見無しに世界を観察できる
- 多様性を享受できる感覚
どんな場所でも、どんな人達とも、働ける
- 自由なキャリア
仕事を通して社会課題に関わって行く方法

帰国後の仕事内容

juwi（ユーイ）自然電力(株)

再生可能エネルギーの普及事業。太陽光発電所の建設プロジェクトのマネジメント業務

帰国後の仕事にJICAボランティアの経験が生かされていること

- 社会課題を”自分ごと“として仕事を通して解決に関わって行くこと
- 多様性のある職場での、青年海外協力隊のリアルな異文化経験

民間企業

国際協力分野
NGO

廃棄物系

進学

自治体

3. 求められる人材 について

- みなさんの様々な経験が生かせる
- 環境関連の業務経験が無くても挑戦できる
- 合格後、トレーニング・サポート体制が充実している

環境教育は、以下の力があると円滑な活動が展開できます。

①環境教育に関する知識

②コミュニケーション力

③企画力

④リーダーシップ、指導力

⑤課題発見力

⑥交渉力

⑦発信力

⑧教材作成力

① 啓発経験

② イベントや研修の
企画立案・運営経験

③ 営業経験

④ リーダー経験

⑤ 教材やWEB作成経験

⑥ ボランティア、
インターンシップ経験

⑦ 広報経験

⑧ 組織(グループ、団体)
の立ち上げの経験

環境教育の活動には、環境教育に直接関連がない経験も重要です。

**① 学歴： 大学卒業以上（60%）
指定なし（35%）**

（2018年度春募集）

**② 経験： 環境関連の業務経験（10%）
環境関連活動経験（65%）
企画・運営、営業（45%）**

（いずれかの経験で応募可能な要請もカウント）

合格者はこんな人たち（2017年秋環境教育二次合格者）

平均年齢	27.2歳			
性別	男性18名、女性17名			
最終学歴	大学卒業	71%	大学在学中	14%
	修士号取得	9%	高校卒業	6%
英語レベル	Aレベル	51%	Bレベル	0%
	Cレベル	26%	Dレベル	23%
環境教育の実務経験	あり	34%	なし	66%
環境関連の活動経験	あり	92%	なし	8%
資格	ネイチャーゲームリーダー 自然体験活動指導者 ファシリテーションスキル 資格 インタープリター 資格 など			

応募前に関連する研修等の受講やイベントへの参加をお勧めします。

関連する研修やイベント例

- ネイチャーゲームリーダー養成講座
- 環境教育リーダー育成研修
- 環境教育指導者養成セミナー
- インタープリテーション研修
- ファシリテーション講座

応募前に環境問題に関連するボランティア活動等への参加をお勧めします。

- 主催者やスタッフ側の経験を行うことで、企画の作り方、指導や運営方法、コーディネーションなど様々な視点で学べます。
- 自分から周囲に働きかけて何かを始めてみてください。

4. 質疑応答

例) 他の職種と迷っているのですが・・・？

職種	環境教育との違い
コミュニティ開発	地域社会全体を対象とした生活改善を目的とした活動を行います。
廃棄物処理	環境教育の啓発活動だけではなく、廃棄物処理のしくみを作ります。
環境行政	環境管理、データ分析、調査などが主な活動となります。
観光	エコツーリズム、グリーンツーリズム等、環境をテーマとする活動支援もありますが、主な活動は観光振興、マーケティング関連となります。

10月**1**日(月)

~

11月**1**日(木)

「体育・スポーツ分野」

9月13日(木) 21:00～

■全国説明会キャラバン

■WEB説明会

（インターネット配信によるオンライン説明会）

■OB/OGのビデオ相談

（青年海外協力隊経験者とのビデオチャット）

■お気軽質問窓口（WEB上の質問箱）

JICAボランティア

検索

